

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人 静岡県国際交流協会

1. 事業の趣旨・目的

日本語初期指導を必要とする児童・生徒に対して、どのように意思疎通を図り、学校生活の手助けをすることができるか、支援に関わる学校教員・ボランティア・支援員等関係者が具体的なノウハウを学ぶことを目的とする。受講生は静岡県教育委員会が作成中の日本語初期指導の手引きを活用し、初期指導を必要とする児童・生徒への日本語指導、コミュニケーション活動について基礎的な知識を得、支援活動に活かしていく。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月11日	静岡県観光・国際交流共用会議室	杉浦弘卓, 中村謙, 矢崎満夫, 古橋哉子	研修会開催までの流れの確認、周知方法、運営方法について	研修会開催について、県、県教委、当協会の協力体制について確認する。研修会案内の周知方法について検討する。
6月9日	静岡県観光・国際交流共用会議室	杉浦弘卓, 中村謙, 矢崎満夫, 古橋哉子	開催地と日程の決定について	研修会開催に意欲的な市町を募り、応募があった自治体での開催を決定。具体的な開催日時を市教委担当者と連絡を取り合い決めた。
7月7日	静岡大学	杉浦弘卓, 矢崎満夫, 古橋哉子	研修会の具体的な内容について検討・確認	講義内容について話し合いを行う。子どもへの日本語支援の重要性について再確認するレクチャーと模擬授業を行うこととする。
11月28日	静岡県観光・国際交流共用会議室	杉浦弘卓, 矢崎満夫, 古橋哉子	研修会の振り返り、来年度について	受講生のアンケートを振り返り、来年度へ向けてどのようにつなげていけるか協議した。
2月27日	静岡県観光・国際交流共用会議室	杉浦弘卓, 矢崎満夫, 古橋哉子	研修会の振り返り、来年度について②	今年度の研修をふまえ、どのような内容、運営体制がよいか協議した。日本語と学習支援のつながりについても触れ、散在市における年少者支援の啓蒙も強化する方向を決めた。

【写真】(研修会の様子)



3. 養成講座の内容について

- (1) 講座名 静岡県版「日本語初期指導カリキュラム」研修会
～はじめての日本語とクラスの仲間づくり～

(2) 開催場所

開催市	第1回日時	第2回日時	第3回日時	場 所
沼津市	8月16日(火) 9:00～16:00			沼津市役所 801 会議室
掛川市	7月14日(木) 13:30～16:30	10月11日(火) 13:30～16:30		掛川市教育センター
菊川市	7月12日(火) 13:45～16:15	10月17日(月) 13:45～16:15	1月17日(火) 13:45～16:15	菊川市中央公民館
袋井市	8月9日(火) 9:00～12:00	11月1日(火) 13:30～16:30		袋井市役所 3 階 301
磐田市	12月13日(火) 13:30～16:30	12月20日(火) 13:30～16:30		磐田市役所豊田支所
湖西市	8月11日(木) 9:00～16:00	8月12日(金) 10:00～12:00		湖西市民会館大会議室

(3) 学習目標

学校教員、外国人支援員・相談員、ボランティア等が合同で外国籍児童・生徒への日本語初期指導にかかる基礎的な知識・技能を学ぶ。また、同じ地域で年少者支援に関わる者同士、連携を強化し、情報を共有する。

(4) 使用した教材・リソース

静岡県教育委員会作成カリキュラム「はじめての日本語とクラスの仲間づくり」
将来へ続く道（国際日本語普及協会）等

(5) 受講者の募集方法

当協会より県内市町国際交流協会へ、静岡県多文化共生課より市町多文化共生担当課へ、県教育委員会より市町国際交流協会へ研修会開催案内通知を送付し、広く開催を案内するとともに各自治体で開催について検討していただく。開催を希望する市町は教育委員会が窓口となり受講者を取りまとめ、県教育委員会へ申込む。

(6) 受講者の総数 136 人 (出身・国籍別内訳 日本 126 人 ブラジル 10 人)

(7) 開催時間数(回数) 39.5 時間 (全 12 回)

(8) 参加対象者の要件 外国籍児童・生徒が在籍している担任教員、加配教員、外国人児童・生徒担当教員、外国人支援員、現在児童・生徒支援に関わっている日本語ボランティア等

(9) 講座内容

回(※)	開催日	時間数	受講人数	内容	講師
①	7月12日 13:45～16:15	2.5時間	23人	外国人児童・生徒の受入意義、異文化適応の解説、初期指導に役立つ教材・テキストの紹介等	静岡大学教職大学院 准教授 矢崎満夫
②	7月14日 13:30～ 16:30	3時間	14人	〃	〃
③	8月9日 9:00～ 12:00	3時間	25人	〃	〃
④	8月11日 9:00～16:00	6時間	18人	〃	〃
⑤	8月12日 10:00～ 12:00	2時間	18人	教材作成、模擬授業、指導方法について協議	〃
⑥	8月16日 9:00～16:00	6時間	31人	外国人児童生徒の受入意義、地域ボランティアとの連携について	〃
⑦	10月11日 13:30～16:30	3時間	14人	教材作成、模擬授業、指導方法について協議	〃
⑧	10月17日 13:45～16:15	2.5時間	23人	〃	〃
⑨	11月1日 13:30～16:30	3時間	25人	〃	〃
⑩	12月13日 13:30～16:30	3時間	25人	外国人児童・生徒の受入意義、異文化適応の解説、初期指導に役立つ教材・テキストの紹介等	〃
⑪	12月20日 13:30～16:30	3時間	25人	〃	〃

⑫	1月17日 13:45～16:15	2.5時間	23人	教材研究を行い、カリキュラムの具体的な使用法について協議	〃
---	----------------------	-------	-----	------------------------------	---

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

どの会場受講生からも概ね好評だった。添付資料参照。

② 実施主体からの研修内容結果評価

本研修会を実施するにあたり、初めて県教育委員会と協働で連携を図りながら研修を実施することができた。そのため、学校教員とボランティア等が合同で研修を受けることができ、関係者同士が顔を合わせて課題や情報を共有する機会としても非常に有益だった。教員は学校内で外国人児童生徒の担当として孤立しているケースが多く、普段悩みを共有する機会もないため、手探りで指導している状況がよく把握できた。教材研究や模擬授業を取り入れ、具体的に指導方法について協議をしたことで、明日すぐ使える手法や工夫を学べたことも実践的でよかったのではないかなと思う。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

本研修会の成果について今回研修を実施しなかった市へも報告を行い、外国人年少者支援にかかる指導者研修の重要性について働きかけていく。

② 研修後の人材活用

市教育委員会を中心とし、外国人年少者支援の中核的指導者、ボランティアとして連絡を取り合い、引き続きつながりを深めていく。

(12) 今後の課題

外国人年少者への日本語指導については市町によって体制が違い、教員やボランティアの認識・課題意識についても温度差があることがよくわかった。今回、研修の実施に意欲的な市町を募ったところ、集住市が主となったので、今後は散住市へも働きかけを行い、外国人年少者への日本語支援の重要性について県教育委員会と協働で理解の推進を図っていく。また同じ地域で年少者支援に関わる関係者同士の連携を深められる工夫として、地域の実情に合った課題に関する研修会を継続して実施していきたい。